



ママサポートえぶろん

《第 52 号》



発行 2012年 6月 20日

編集 特定非営利活動法人

ママサポートえぶろん事務局

ぽけっと

発行責任者 帯谷 昭子

平成24年度 定期総会終わる

事務局

去る5月31日、法人の平成24年度定期総会が開かれました。

平成23年度も計画通り事業を終えることができ、利用者及び会員の皆様には感謝申し上げます。

さて、毎年、業務以外のほとんどの職員が出席する定期総会をさらに有意義にするため、外部から講師をお招きして講話をいただくという時間を設けています。

今年は、あしよる敬愛会居宅介護支援事業所（ケアハウス）より、介護支援専門員の武藤愉香子氏を招いて、昨年10月に開設した事業所のお話を聞かせていただきました。

保育士から老人福祉の世界に飛び込み、最難関と言われるケアマネ資格への挑戦、そして事業所開設、その後の悪戦苦闘の日々……。資格取得から事業所運営に至るまで本当に努力して頑張ってきたのが伝わってきました。

ケアマネさんなしには始まらない介護保険制度。通所介護事業所である、「ひなたぼっこ」や「あ・笑〜る」でも武藤さんにお世話になることも多く、今後も密接に連携しながら利用者の皆様の在宅生活を支えていきたいと思えます。

*居宅介護支援事業所とは、介護支援専門員（ケアマネ）が要介護者の在宅生活を支えるためのケアプランを立てることを業とする事業所のことです。





わたしは足寄町に生まれ、現在札幌市で臨床心理士として働いています。
このたび、縁あって寄稿させていただくこととなりました。よろしくお願いします。

支援ということばをわたしたちは使います。支援とは、援け（たすけ）を必要とする人に対して、なんらかの技術や労力、資源をもっている側がそれを提供し支えるということです。

ところで、支援ということばを、それを受ける立場の方からあまり聞いたことがありません。多くは、援助者側から聞くことばです。いうまでもなくわたし自身もそこに含まれます。

わたしは医療機関で発達障がいのお子さんや小学生の療育をしていましたが、本人は支援されに来ているとは思っていません。遊んでくれる大人がいて、遊んでくれると思っています。

この時期に医療機関や支援機関につながる発達障がいのお子さんは、心地よく一緒に遊べるということ自体が難しいお子さんが多いです。療育では特別面白いことをしているわけではなく、その子の楽しめる水準に合わせてやりとりしているだけなのですが、子どもたちは今か今かと心待ちにして来てくれます。

そんな時間を重ねていくうちに、子どもは安心して大人を動かすことや、主張することができるようになってきます。モノではなく人と遊ぶことが楽しくなってきたり、他のお友達とも仲良くしてみたい、などの変化・成長があらわれてきます。

不登校やひきこもりの思春期・青年期の人たちにもお会いしてきました。周囲の大人は、悩みを専門家に話せたら解決するのではないかと期待して連れてくるのですが、悩みを悩みとして話せる力がある人はごくまれです。多くは、何に困っているのかことばにできず、不登校やひきこもりという状態に触れられることすら耐えられない人が多いです。本人は、これしかできないと思っただけでも、これでいいと思っただけでも、自分を責めて責めて小さくなってしまっています。そのため、そのことに触れただけで、自分が責められているととってしまう人もいます。

そして支援される提案は、それがどんなによい提案であっても、支援される必要があるほど自分に力がない、ということを感じ取られているようにしか受け取れないことがしばしばあります。そんなとき、本人の関心のある事柄を手がかりに、ただ一緒に居ることや楽しむ場をもつことで、少しずつ能動的になっていくことがあります。

支援されにくいわけではない場所、本人が一人の人として求められ認められる関係や場があることが、命ののびやかさにつながるのだらうと思います。これは、老若を問わず、また病気や障害の有無を問わないことのように思います。

いうまでもなく、支援されにくいわけではない場所を作ること自体も立派な支援です。ただ、支援ということばは受ける側にとって、時に、自分の力が及ばないことを認める痛みとともにあるということは、忘れてはいけないと思っています。



いつもありがとうございます！

賛助会員の皆様や利用者様のご家族また当法人を支援して下さる方々から、毎年たくさんのお気持ちを頂いております。平成23年度分の寄附金及び賛助品をご紹介させていただくのと同時に、この場を借りて職員一同お礼申し上げます。

寄附金 ～ 590,000円

賛助品 ～ 74件 (栄養補助食品、健康飲料、スポーツ飲料、コーヒー、果物、野菜、菓子、豆、紙パンツ、タオル など)

平成23年度決算

収入の部 82,783,489

支出の部 81,985,224

経常利益 798,265

あ・笑～る通信

介護予防通所介護「MELLOW 倶楽部あ・笑～る」です。昨年の開設から約1年半が過ぎ、現在は利用者さんも増えました。あ・笑～るでは身体の体操はもちろんのこと脳リハビリにも取り組んでおり、皆さんが心身ともに元気でいられるお手伝いをさせていただいています。興味のある方、是非見学にいらして下さいね！ 【山田】



いろは坂

メロデュー橋

広井 数子

里見が丘公園を散策するのが大好きだ。

パークゴルフ場、キャンプ場、俳句の道、しば桜の展望台などがあり、季節ごとの自然の移り変わりが楽しめる。

中でも私が気に入っているのはメロデュー橋だ。キャンプ場につながる赤い吊り橋で、渡りだすとセンサーが反応して音楽が流れる仕組みになっている。曲は季節によって違う。春は「ピクニック」や「おぼろ月夜」、秋は「どんぐりころころ」や「紅葉」という具合だ。一度通過するたびに一曲奏でられるので、続けて曲を聴くためには、また渡らなければならぬ。だから私は、橋をゆっくりと往復したり、細い水がちろちろと流れてゆく谷底を見下ろしたりしながら、次々と曲が変わるのを楽しむ。

ときどきはエゾリスがあたりを走り回り、大きな尾をふくらませながらキイと鳴いたりする。首をかしげてこちらをうかがう仕草は、まるでぬいぐるみのようだ。

この橋の上にいるとき、私は何も考えていない。ただ、ぼーっとしているだけだ。自分が空気にとけこんでいるようにふわふわとしている。この時間がなんとも心地良い。

曲が一回りして元にもどったら「さて」と橋を後にする。最後にもう一度センサーの下を通ることを忘れない。そして、背中でメロデューを聴きながら頭のスイッチをONにして、夕飯のメニューを考える。



編集後記

4月1日より生まれて初めて「ブログ」に挑戦している。やる以上「週1回更新」を目標にしているが、最近、生活の視点が変わってきた。◆例えば、我が家の愛犬をサマーカットしたらすっごく可愛くなって、今までなら「可愛い！」で終わっていたのに「失敗した。カット前の写真撮るんだった。」と後悔する。面白い場面に出会うたび、ブログに載せられるかなって考えてしまうのだ。◆ここ数年の私とは言えばチャレンジ精神に欠けていて、デジカメも買った方がいいが、使った事がなかった。それなのに、どうだろう？ブログのおかげでデジカメを手にする私がいる。まだまだ、スタッフ頼みではあるけれど1年もしたら自由に写真の加工もできるようになっているかも・・・なんて、期待すらしているのだ。◆ブログが果たして本来の目的である情報発信になっているのか、またどれくらいの人に読まれているのかはわからない。でも、そんなことは気にせず、自分達で書いて自分達で楽しめているからいいと思う。皆さん、この自己満足の世界に付き合ってくださいね！

(帯谷)

NPO 法人

ママサポートえぶろん

会 員 数

- ・個人会員 33人
- ・利用会員 20人
- ・賛助会員 71人

平成24年6月20日現在

特定非営利活動法人
(NPO)ママサポートえぶろんは民間非営利活動団体です。

会員の皆様の会費と寄付により運営しております。皆様の支援をよろしくお願いいたします。